



久歩行(規定ポイント)の制限時間内の通過や装備、地図を読む「読図」など)▽幕営(安全や環境に配慮したテント設営や炊事など)▽知識(天気図や登山の知識)となつている。運動部では唯一、筆記試験がある。中でも読図は難しく、山で

大阪屈指の名門校、府立天王寺高校には100年以上の歴史を誇る「山岳スキー部」がある。昨年、高校総体登山部門で男子団体1位、女子団体3位の好成績を挙げ、男子は代表として全国高校総体に出場した。現在の3年生4人は、先輩が獲得した出場権を受けて昨年の近畿大会に出場。部活動では個性を尊重しながら、部員同士の信頼関係を築いている。

同校は1896(明治29)年創設。山岳スキー部は、登山部として1917(大正6)年に創部された。現在の部員は54人で、顧問は川辺茂樹教諭ら4人。4月の新歓山行(六甲山)に始まり、夏合宿やスキー合宿で日本アルプスに出かけるなど、活発に活動している。

登山の大会は審査の点数で順位が決まる。審査内容は、計画書▽耐



山の魅力は? 同チームのリーダー、高山寅二朗さんは「みんなしんどくなつて、それでも歩みは止めず会話がなくなつても、一つにつながつている不思議な感覚がある」と表現する。高鶴響さんは「近畿大会出場は、先輩たちがコロナで活動が制限される中、頑張つて

審判が指定した場所を地図上に示す。ミリ単位の正確さがなければ減点対象だ。この力をつけるには「山に登るしかない」と、普段の山行でも周辺の地形や鉄塔などを目印に本番同様の練習をして、基本技術を鍛えている。

装備は各自15〜20キロにもなり、走り込みや筋トレで体力を培う。また、創部100周年記念にOBが体育館に寄贈した高さ4メートルのボルダリング設備で、岩登りに必要な技術向上を図る。

全体練習は週1度で、兼部する部員もいる。中でも、3年生の近畿大会出場チームメンバー、安田康樹さんは音楽部部長や化学研究部など五つの部を掛け持ち。将来は「世界の山に登ったり、バックパッカーとして各国を旅したりしてみたい」と夢は大きい。



くれたおかげ」と受け止め、「山で1日以上一緒にいると、濃いつながりができる」という。

また、久保田涼さんは「山は非日常で、何かに出会う場。頂上の絶景でしんどさが報われる」と語る。計画を立て、朝早くから部員全員で動く経験も、山でしか味わえない。

登山で大切なことは、まず準備や計画。久保田さんは「計画通りに動くには、体力がない下級生に気を配り、睡眠時間なども十分に

仲間とのつながりで大自然に臨む



とらなければ」と話す。高山さんは「山では、判断力も大きい。雨でかつばを着るかどうかなど小さいことでも違ってくる」と話す。スケールの大きな自然は、ユニークな個性派集団を伸びやかにたくましく育てている。

